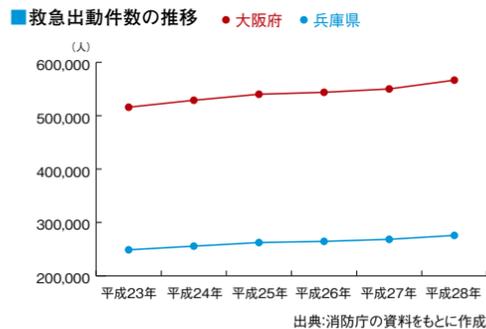


過去最多 救急車の出動件数 救急車を呼ぶか迷ったら「#7119」を推進

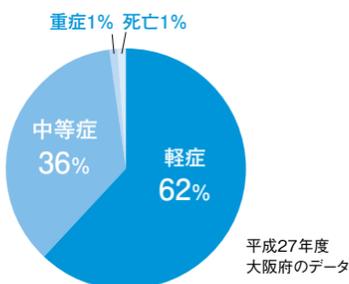
総務省消防庁が発表した「平成28年の救急出動件数等(速報値)」によると、昨年の救急車の出動件数は621万82件で、前年と比べて15万件以上増加した。搬送者数も同様に前年比15万人以上の増加となり、7年連続で過去最多を更新。大阪府や兵庫県でも件数は増え続けている。しかし中には緊急性の低いケースもあり、件数の増加が、本当に救急車が必要な人への対応が遅れると危惧されている。



大阪は出勤率が全国最多 都市部では「不搬送」も

大阪府の昨年の救急車出動件数は約56万6千件、兵庫県では約27万5千件だった。特に大阪府では、人口1万人あたりの出動件数が約640.9件と、全国で最も高い。出動件数が年々増加している原因について、消防庁では高齢者人口の増加が影響しているとみている。大阪府の内訳を見ると、軽症が約62%と半数以上を占め、重症は約1%にとどまる。ただし、のどに異物をつまらせた場合など、結果的に軽症で済んでも緊急度の高いケースはある。一概に軽症であれば救急車の必要性が低

■病院搬送車の傷病程度別割合



いとは言えず、判断は難しい。また都市部では、酷酔状態でも道路に倒れている人に対し、周囲の人が声をかけず救急車を呼んでしまうケースも多いという。救急車が到着しても本人が拒否し、病院に運ばずに引き返す「不搬送」の一因となっている。

適正利用を促すための 大阪府と兵庫県の対策は

消防では、救急車を呼ぶべきか判断に迷った際に相談できる、24時間年中無休の電話窓口「#7119」の全国展開を推進している。大阪府の全市町村の協同運営により2010年から「救急安心センターおおさか#7119」の運営が始まった。医師や看護師が待機し、電話で状況を確認して救急車が必要と判断した場合は119に転送、必要ない場合には救急病院案内を行う。また救急安心センター事業の一環として、症状別に緊急度を判断できる「小児救急支援アプリ」を大阪大学・大阪市立大学と



▶「小児救急支援アプリ」。症状がある人の年齢・性別を入力し、症状などを選択すると緊急度の判定がされ、そのまま119番や医療相談窓口へ発信できる。

大阪市消防局が連携して開発し、無料配布している。緊急度が低い場合には、その時間に受診可能な近隣の病院検索ができ、全国初の取り組みという。

神戸市でも「#7119」を今年10月以降にスタートする予定。窓口には受付員と看護師が待機し、必要に応じて市内の医師と連携しながら状況を判断する。2015年には、症状別に緊急度を診断できるWebサイト「神戸救急受診ガイド」を開発しており、救急車の適正利用を促している。

西宮オリジナルの“さくら” 被災地に植栽

西宮市の市花でもある“さくら”。市ではかねてより、植物バイオテクノロジーでオリジナルの品種「西宮権現平桜」と「夙川舞桜」を増殖している。今年3月、東日本大震災の被災地、宮城県女川町にこれらの桜が寄贈された。これは、西宮市内の民間団体が市と提携し、平成24年より「西宮市オリジナル植物による被災地復興支援事業」の一環として行われており、宮城県女川町と南三陸町に、西宮市オリジナルの植物「ゆめむらさき」と“さくら”2種類を贈り、花と緑による「心とまちづくり」の支援を行うもの。まずは24年に短期的な支援として、すぐに花をめでてもらえる「ゆ



▲阪神間で桜の名所としても有名な夙川公園にも植えられている西宮権現平桜(右)と夙川舞桜。

めむらさき」の花の寄せ植えを両町に送った。そして、今回、長期的な支援として、受け入れ態勢が整った女川町で3m前後の成木計23本の植栽が実現した。今後は、南三陸町にも、復興状況や受け入れ態勢などを鑑み、協議のうえ検討していくという。なお、5月9日には、女川町で記念植樹式が行われる予定。市の担当者は、「復興のシンボルとして、被災地の人たちにとって、心の癒しとなれたら」と話す。

▶今年3月、桜の木を積み込んだトラックが女川町に向かった。



▲西宮市で開発され、阪神・淡路大震災が発生した平成7年に生まれた花、ゆめむらさき。市民からの公募で名づけられ、「明日への夢と希望を託して…」という想いが込められている。

玄関口にふさわしい街に JR芦屋駅南地区の再開発

芦屋市は、かねてよりJR芦屋駅南地区のまちづくり事業の検討を進めており、3月末に市街地再開発事業の都市計画が決定した。今後は、事業計画の作成などを進め、決定を目指していく考えだ。

昭和21年から駅前広場の都市計画はあり、平成5年から検討を開始した。その後、地元住民が中心となってまちづくり



▲現段階で都市計画が決定されている区域。駅前道路も大幅に拡大される。



▲JR芦屋駅南口。バスやタクシー、送迎の車などが混雑し、その間をぬうように歩行者が行き交うことも。

研究会が発足し、再開発事業が計画されたが、阪神・淡路大震災の復興事業による市の財政状況の悪化により平成13年に事業の実施が延期。平成23年にまちづくり計画の検討が再開され、地元住民と協働しながら計画検討を進めてきた。

駅前には、バスロータリーを含む交通広場が設けられ、建設予定の建物は、駅舎と立体横断道路で接続し、安全な歩行者空間を整備する。また、子育て支援や世代交流などのための公共施設や商業施設、駐車場および集合住宅も入る予定。具体的な計画については、今後進められていく。担当者は「芦屋市の玄関口にふさわしい街にしたい」と話す。

生活経済事犯被害の未然防止対策の推進

協力:兵庫県警察

一人暮らしの高齢者や日中高齢者だけがいる家を狙って訪問し、高額な契約をさせる点検商法、訪問購入が多発している。また、従来の契約業者であると勘違いさせ、分電盤の清掃や消火設備の点検を名目に高額請求される事業所を狙った事案も後を絶たない。

高齢者が狙われる悪質商法

【点検商法】

排水管等の無料点検を装って訪問し、次から次へと「瓦が割れていて屋根の修理をしないと危険」「水道管の中が錆びていて、こんな水を飲んでいたら病気になる」等と事実と異なることを言って不安をあおり、全く必要のない住宅リフォームや浄水器等売りつける商法。

【訪問購入】

本来の目的は貴金属であるにも関わらず、「何でも高く買います」等と甘言を用いて訪問し、貴金属以外の物は難癖を付けて買わず、かつ、貴金属については、相場よりも著しく低い価格で強引に買い取りを行う商法。

事業所が狙われる悪質商法

分電盤の定期清掃や消火設備の定期点検を装って電話をかけ、対応した従業員に従来の契約業者と勘違いさせて事業所へ訪問し、軽作業で高額請求をして事業者間取引(クーリング・オフの適用除外)を理由に契約解除や返金に応じないといった商法。

被害に遭わないための防犯ポイント

<p>うまい話を信用しない! うまい話、絶対もうかる話には、必ず落とし穴...</p>	<p>そうだんする! ひとり判断せず、家族・知人・相談機関に相談を!</p>
<p>つられて返事をしない! すぐに契約しない! 悪質業者は、言葉巧みにすぐに契約するように迫ってくる</p>	<p>きっぱり! はっきり断る! あいまいな返事をせず、キッパリ! ハッキリ断る!</p>

「少しでも怪しい」と思ったら、その場で契約せずに、迷わず相談を!

ヤミ金融・悪質商法110番

TEL.078-371-9110(みないくらの110番) 警察総合相談電話 #9110 もしくは 最寄りの警察署へ相談しましょう。